

第2回総合計画審議会

令和8年8月26日 18時30分～

出席者 貫田会長 廣江副会長 岩野委員 小池委員 白銀委員 若狭委員 高橋委員
西村委員 花岡委員

欠席者 太田副会長 蘆田委員 小林委員 鈴木委員 谷口委員 林委員

①上下水道の整備

評価 D

今後の取組への意見

委員 内水氾濫の被害がおきているが芽室町ではどうなっているか？

次田課長 HPに掲載している。情報は公開している。ハザードマップにも内水氾濫が起こる可能性がある。

②消防・救急の充実

評価 C

今後の取組への意見

委員 町民向けの講習は啓蒙活動として続けてもらいたい。

高齢者の一人暮らしが増え、日常生活に不安を感じている。救急車を呼ぶ判断や家の中の事故など、学べる機会が必要だと考えている。

講習を受けることで高齢者支援課との情報共有ができていることや職員の顔を見えたことで安心した。もっと町民に消防団などの日頃の取組を知ってもらえる方がいいのではないかなと思う。

松久署長 講習は一人でも講習は行っているが、個人でというのは難しいのかもしれない。消防団については担い手不足で、幼年消防クラブが訓練に参加するとき、保護者も同行する。その際に周知をしている。広報誌への記事も年に1回程度だが掲載させてもらっている。

③親切・便利な行政サービスの推進

評価 C

今後の取組への意見

委員 らくらく窓口について、内製化した仕組みについて教えてほしい。

玉堀係長 DX化で全国的に書かない窓口の取り組みを進めた。芽室町は業務の棚卸から書かない窓口への取組とした。町民が手続きに多くの窓口を回ることによって町民が疲れてしまうということもあった。職員が窓口手続きを体験し、いろいろなシステムを見て、作れるのではないかなと感じた。個人情報の安全面を考えたシステムで、申請書に転記するシステムとしている。

委員 成果指標は町民アンケートで、窓口を使った人も使っていない人もいるので反映しづらいかなと。そういった事情も含めて評価したい。

④住民自治の実現と地域活力の維持

評価 C

今後の取組への意見

委員 成果指標①が低くなっているのでは。町内会の加入率が年々低くなっているのとダブって見える。

我妻課長 17,500人町民がいる中で、地域活動に参加できるかというところは、制約があって出られない人もいる。そんなに低い値だとは思っていない。

委員 目標値と8.4%乖離があるが、どのように差を埋めていく手立ては？

我妻課長 今の取組だけで8%上がるとは思わないが、いろいろな団体の取組を行政が支援することで埋まっていくと考えている。今後も、取り組みを検証しながらすすめていきたい。

委員 住民自治の新たな担い手とは？

我妻課長 令和9年度から第6期総計に盛り込んでいる。議会への提案を行う。
過去の地域コミュニティ、住民自治は地域＝町内会でしたが、加入率が低下し別の枠組みを考える必要がある。大きな枠組みや課題解決型の枠組み、6期総で詳しく書いていきたい

委員 成果指標①について、ちょっとわかりづらいかと思います。

我妻課長 住民意識調査は受取り方で変わるものである。意識があるかどうかというところ。設問も見直すものは見直していきたい。指標は考えたい。

委員 町内会、活動支援センター、連携しながら進めている担い手づくりの内容は？

我妻課長 人口が減少するなか、町民以外の町民に興味ある方、例えば交流人口関係人口の方が活躍できないだろうかということを考えている。連携しながら進めていきたい。

委員 民生委員も担い手不足である。町内会から出していただいた部分もあるが、別なコミュニティということができればそこからも民生委員がでることに期待したい。

委員 意見として成果指標を具体的な指標にした方がいいと思う。

⑤効果的・効率的な行政運営

評価 C

今後の取組への意見 なし

⑥健全な財政運営

有澤課長 (8月判明分の数値を報告)

評価 D

今後の取組への意見 なし

⑦担い手育成と農業の応援団づくり

評価 D

今後の取組への意見

委員 行政への対応に感謝。この取り組みを継続することが必要だと思う。

高橋課長 農業小学校、食農教育などの取組を継続して、小学生の時から農業を知ってもらう。大人になって思い出して芽室町へ戻ってきてもらえるかもしれない。

⑧農業生産性の向上と経営基盤支援

評価 C

今後の取組への意見

委員 振興センターで上がったとはいえないのではという、意見があるが、振興センターは農家の支出を減らすというところに貢献していると思う。

私は振興センターが無い時から営農しているので、あるとないとでは私は大違いだと思っている。

高橋課長 振興センターは開発局や道などと協力して先進的な取り組みをしている、農家への技術の普及も含め町としても協力したい。

委員 生食用ジャガイモの輸入解禁についてどのように思われているのか？

高橋課長 病害虫の発生があるので、北海道としては一丸として反対している。

消費者が輸入ジャガイモを植えると病害虫の危険性が高くなる 町も北海道、国同様に動きを注視している。

委員 病害虫が非常に心配される。今まで生食用ジャガイモが輸入されてこなかったのは病害虫の侵入のリスクがあったから。今、外国から輸入圧力がある。農業者としては断固反対。

農業者も反対と言っているだけではなく、消費者の理解を得る取り組みをしなければならないと思っている。農協、行政で協力して進めたい。

⑨農地・土地改良施設等の整備・充実

評価 C

今後の取組への意見 なし

⑩地域林業の推進

評価 D

今後の取組への意見 なし